2024 年 7 月 1 日発行

Newsletter

No. 1
2024

一般社団法人　日本川崎病学会

Japanese Society of Kawasaki Disease

発行

一般社団法人
日本川崎病学会

日本川崎病学会事務局

〒150-8935 東京都渋谷区
広尾 4−1−22 日本赤十字社
医療センター小児科医局内

Table and Contents

理事長挨拶 …… 1
新理事･代議員紹介 …… 2
新組織図 …… 4
各委員会について …… 5
第 6 回教育セミナー開催報告 …… 6
学会･研究会 …… 7
編集後記 …… 8

広報委員

Newsletter 係

髙月　晋一
池田　和幸
益田　博司
福田　清香
星野　真介

理事長からのご挨拶

一般社団法人日本川崎病学会

理事長　髙橋　啓

1981 年 10 月第 1 回日本川崎病研究会総会が開催されて以来、40 年以上の歴史をもつ本会は 2009 年 10 月任意団体日本川崎病学会、2021 年 12 月一般社団法人日本川崎病学会へと移行し、社会的にも一層信頼される団体になりました。本学会は疫学、遺伝、微生物、免疫、病理、小児科、内科、外科など多岐にわたる領域の基礎・臨床研究者、そして川崎病の子供をもつ親の会などの団体により支えられ、一疾患について討論が加えられる極めてユニークな組織です。初代理事の方々の御尽力により一般社団法人日本川崎病学会としての体制は大分整いました。２代目理事長としての私の役割は学会基盤をより堅固なものとして、次代の日本川崎病学会を担う方々に少しでも良い形でバトンを渡すことと考えています。以下に現在進行している学会活動について簡単に触れてみたいと思います。

川崎病は、遺伝的感受性をもつ子に感染因子が加わり発症することは誰しも認めるところでしょう。しかし、本疾患の原因、発症機序の詳細はいまだに明らかになっていません。標準治療法は確立しましたが不応の症例が少なからず存在し、この中から心血管合併症が高率に発生しています。さらに、心血管後遺症を残した患者さんには虚血性心疾患のリスクを抱えつつ生活している方がいます。このように川崎病はまだまだ判らないこと、解決しなければならないことが山積しています。新型コロナ感染症はそれまでの川崎病の発生状況を大きく変容させました。特に MIS-C の出現は川崎病の病因病態を考える上で貴重な手がかりを与えてくれるかもしれません。学術委員会は本件に関わる課題を学会公認研究として採択し共同研究を展開しています。一方、教育委員会は若手研究者に向けて川崎病の基本的事項から先端研究についてわかりやすく解説する川崎病セミナーを開催しています。広報委員会では学会や関連団体の活動を伝えるため、ホームページに加えて SNS を通じたリアルタイムの細やかな情報発信を盛んに行っています。

髙橋　啓

Kei Takahashi

Japanese Society of Kawasaki Disease
Chairperson

日本川崎病学会 会長
日本川崎病研究センター 理事
東邦大学医療センター大橋病院病理診断科

川崎富作先生は卓越した観察眼により日常診療の中からこの疾患を発見しました。一疾患を対象とする本学会にとって症例検討は極めて重要な意味をもちます。若き臨床医には是非、経験した興味深い症例の報告を行っていただきたいと思います。症例検討を通じて会員同士がこれまでの川崎病との差について検討し、川崎病診療にフィードバックできる機会を設けることも本会の大切な姿勢であると感じています。学術委員会は優れた研究論文に授与する川崎賞に加えて、症例報告を顕彰する制度を検討しています。

私が参加している厚労省「難治性血管炎の医療水準・患者 QOL 向上に資する研究班」では、小児の高安動脈炎、結節性多発動脈炎、ANCA 関連血管炎と共に川崎病に関する情報交換が行われています。川崎病研究を推し進めるためにはこうした横断的理解が今後ますます必要になってくるでしょう。学会連携担当は、日本小児科学会をはじめ小児、成人領域の循環器、リウマチ、免疫そして感染症など学会・研究会と情報交換を図っています。また、日米を軸に開催されてきた国際川崎病シンポジウムが本年 8 月にカナダモントリオールで開催されます。インドをはじめとするアジアや欧州諸国の川崎病研究も活発になされるようになってきました。日本が主導してきた川崎病研究の歴史を礎に国際的な川崎病研究が繰り広げられれば川崎病の新たな一面がみえてくるでしょう。学会は国際交流を推し進めています。さらに、親の会や川崎病を経験された患者さん御本人との意見交換も今後ますます大切になると考えます。

1970 年以降連綿と続いてきた川崎病全国調査は、2021－2022 年を対象とした第 27 回調査をもってひとつの区切りがつけられました。しかし、数多くの新知見を世界に発信してきた疫学調査の重要性が今後も変わることはありません。そこで、日本川崎病研究センターの支援のもと日本川崎病学会では疫学委員会が主体となって全国調査を継続することにしました。調査を委託する共同研究機関はすでに決定し「川崎病全国疫学調査」として動き出しています。新たな全国調査でもこれまでの調査結果と比較検討可能であることが大原則です。その上で新生全国疫学調査ならではの調査を展開できたら素晴らしいことです。

川崎先生の報告から 57 年、先生の御逝去から 4 年が経った今、先生の笑顔に会えないことをとても寂しく感じますが、私達はまだ川崎先生から戴いた宿題に答えることが出来ていません。今後も活気ある学会活動を継続するためには中堅・若手研究者の力が絶対に必要です。謎がまだまだ多いこの疾患の本態をあきらかにするため若き研究者に積極的に参加していただきたいと思います。私はそのための体制作りに尽力します。会員か否かにかかわらず興味を持たれた方、参加を希望される方は是非、私どもへご連絡を戴きたいと思います。

東邦大学医療センター大橋病院病理診断科
高橋 啓

新理事・代議員紹介

理事長

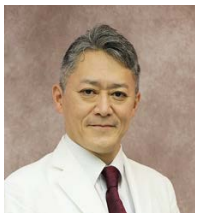
髙橋　啓

東邦大学医療センター大橋病院　病理診断科

理事

伊藤　秀一

横浜市立大学大学院医学研究科 発生成育小児医療学



上野　健太郎

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科　小児科学分野

尾内　善広

千葉大学大学院医学研究院　公衆衛生学

加藤　太一

名古屋大学大学院医学系研究科　成長発達医学

小林　徹

国立成育医療研究センター データサイエンス部

髙月　晋一

東邦大学医療センター大森病院　小児科

津田　悦子

国立循環器病研究センター　小児循環器内科

沼野　藤人

新潟大学　小児科

濱田　洋通

千葉大学　小児科

古野　憲司

福岡赤十字病院　小児科

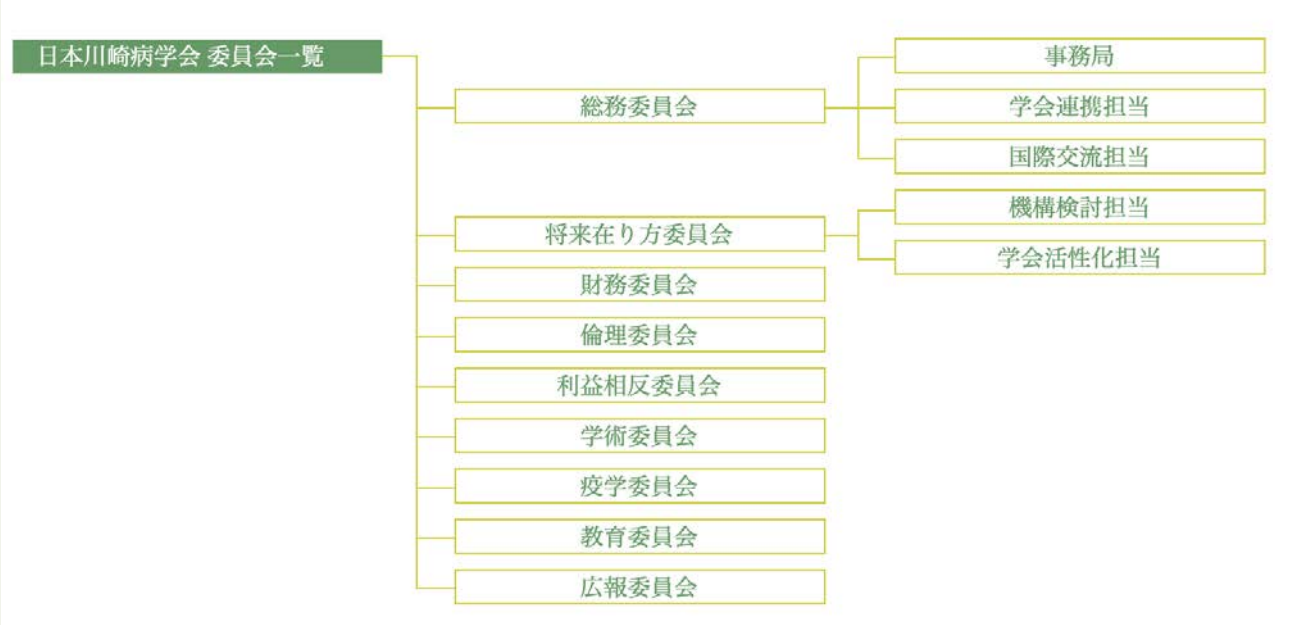
松原　知代

獨協医科大学埼玉医療センター　小児科

三谷　義英

三重大学医学部附属病院　小児科

新組織図



各委員会について

■ 総務委員会

総務委員会は大きく分けて、事務局、学会連携検討小委員会、国際交流検討小委員会の業務があります。事務局では会員管理や法人の登記関連などの事務局業務を行っています。学会連携検討小委員会では連携学会との合議により、学術集会などでの共催セッションの企画、健保対策、薬事対策等を行います。また、国際交流検討小委員会は Asia-Pacific Kawasaki Disease Association との教育セミナーや共同研究を通じた活動をしています。

■ 将来在り方委員会

将来在り方委員会は、「任意団体から社団法人化した日本川崎病学会がさらに発展していくために、どのように活動すべきか、今後の方向性を議論して提案する」を目的に活動しています。年長者だけでなく若手、女性、地域性を考慮したダイバーシティを意識した委員構成になっています。具体的な活動は A）機構検討担当：小林　徹（チームリーダー）、横内　幸、須田憲治、松原知代（委員長）と、B）学会活性化担当：古野憲司（チームリーダー）、福田清香、星野真介、伊藤秀一とわかれて活動していきます。現時点はまだ前期からの課題だった日本小児科学会分科会への申請書作成をおこなっただけです。会員の皆様のご意見を広く受け入れて良い提案をしていきたいと思っています。

■ 財務委員会

財務委員会では、川崎病学会における予算案の立案や決算報告などを行なっています。予算案は各委員会などからの要望を検討し、財政状況も踏まえて適正な金額になるように検討しています。また、決算報告では税理士の先生と連携して、必要であれば会計処理について相談しつつ、誤りのない報告を心がけています。学会のアクティビティの最適化と健全な財政とのバランスが取れるよう、今後も努力していきたいと考えています。

■ 倫理委員会

本委員会は、法人格を持つ本学会の学術的活動や運営に医療倫理上の指針を提示、運用することを目的とします。特に、国の定める倫理や個人情報に関する法律や指針の改訂に対応して、本学会の倫理規約の更新、広報を行います。本年は、日本医学会連合の学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針（2023 年 3 月）にあわせて倫理指針を更新しました。 本年の学術集会の応募時から会員の皆様に対応をお願い致します。

■ 利益相反委員会

一般社団法人である本学会の利益相反状態を適切に管理することが本委員会の役目です。学会の活動に社会的責任と高度な倫理性が要求されます。医学研究の実施、研究成果の発表・普及・啓発等の活動を信頼性と公明性を維持した状態で適正に推進させ、本学会の責務を果たせるよう活動したいと思います。学会役員、各委員会委員の COI 自己申告書の調査、確認、学術集会の発表演題に関しての COI の開示の確認などを行います。

■ 学術委員会

学会員が主導する川崎病に関する多施設共同研究に、学会として公認を与え、ホームページ上での周知や学会員メール等による施設リクルートの支援、活動資金の援助を行う公認研究制度が令和 4 年度から始まっています。学術委員会は本制度の規約作成および改訂、応募課題の審査選考において中心的役割を担っています。また川崎賞や学術集会における優秀演題賞の選考にも関わります。このような活動を通じ、学会員の学術活動を奨励しその振興を図っています。

■ 疫学委員会

川崎病はいまだにその原因不明ですが、50 年以上にわたる継続的で詳細な疫学調査結果から多くの知見を得ることができました。疫学委員会では川崎病全国疫学調査を継続、発展させることで世界に向けて多くのエビデンスを発信し、川崎病原因究明の一助となるべく力を尽くして参ります。今後も学会として継続実施する川崎病全国疫学調査へのご協力を、何卒よろしくお願い申し上げます。

■ 教育委員会

皆様、こんにちは。教育委員会委員長の古野です。当委員会は、髙月（副委員長）、三谷、池田のメンバーで活動しています。これまで 6 回の川崎病 web セミナーを開催し、今後も年 2 回程度のペースで開催を予定しております。また学会内に留まらず、学会外の先生方も川崎病の診療や研究に興味をもっていただけるようなコンテンツを提供していきたいと思っております。何卒、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

■ 広報委員会

広報委員会は HP、SNS、Newsletter の 3 つの媒体を通して、川崎病学会活動報告や新会員の募集などを目的に行っております。日本川崎病学会会員様だけでなく、非会員の先生方にも情報発信をしていく予定です。

第 6 回川崎病セミナー報告【池田和幸先生】

日本川崎病学会主催第 6 回川崎病セミナーが 2024 年 2 月 25 日（日）に完全 web で開催されました。全体テーマは、「ガイドラインの行間を埋める！先生ならどうしますか？」としました。毎回、沢山の先生方にご参加いただいており、今回は瞬間最大 121 名と多くの受講者にお集まりいただきました。

セミナーは 2 部構成で、第 1 部として東邦大学小児科 髙月晋一先生に「内科医からみた川崎病という鑑別疾患」をテーマにご講演いただきました（座長：福岡市立こども病院 古野憲司先生）。成人期川崎病の問題は、これまで後遺症のことを意識して循環器内科医に対する啓発をと考えていましたが、成人期発症の場合にはリウマチ科医などにも川崎病の存在そのものを啓発していくことを知りました。

第 2 部として、「治療前に冠動脈拡張のある症例、強化療法しますか？しませんか？ - AHA2023 での症例検討から」のテーマで、三重大学小児科 三谷義英先生にご講演いただきました（座長：京都府立医大小児科 池田）。Dr. Pei-Ni が AHA で提示した症例を、許可をいただいた上で三谷先生から症例呈示していただきました（3 か月男児、発熱 6 日目、不全型川崎病、 3 つの IVIG 不応リスクは低値も冠動脈の Z value は LAD 3.5, RCA 2.98）。

ガイドライン記載の 3 つのリスクスコアでは、初期併用療法の対象とはならないが、冠動脈予後予測として、Z score が有用との報告が増えている流れからすると今後はこれをどう扱っていくかということにポイントをおいて discussion しました。さらに、指定発言として、併用療法をするという立場から吉兼由佳子先生（福岡大学小児科）、併用療法をしないという立場から岡田清吾先生（山口大学小児科）に、それぞれ理由を説明していいただきました。

第1部

18:00～18:30

「内科医からみた川崎病という鑑別疾患」

講師:髙月 晋一 (東邦大学小児科)

座長：古野 憲司 （福岡市立こども病院 総合診療科）

第2部

18:30～19:00

「治療前に冠動脈拡張のある症例、
強化療法しますか？しませんか？」

- AHA2023での症例検討から -

講師:三谷 義英 (三重大学周産母子センター)

指定発言

吉兼 由佳子 (福岡大学小児科) ステロイドを使用した併用療法をするという立場から

岡田 清吾 (山口大学小児科) ステロイドを使用した併用療法をしないという立場から

座長：池田 和幸 （京都府立医科大学小児科）

第 127 回 日本小児科学会学術集会　川崎病セッション報告

【池田和幸先生】

九州大学院医学研究院成長発達医学分野　大賀正一会長のもと第 127 回 日本小児科学会学術集会がヒルトン福岡シーホークにで開催されました。（会期：2024 年 4 月 19 日～21 日）。今回は会長の御計らいにより大会 2 日目のメイン会場が川崎病関連セッションによりほぼ終日独占されるプログラム構成であり、大賀会長の川崎病愛を感じる内容でした。

■　招請講演３

COVID19, Kawasaki Disease and the Heart: What we have learned from the Pandemic

演者：Jane W. Newburger. Associate Chair for Academic Affairs, Department of Cardiology, Boston Children’s Hospital; Commonwealth Professor of Pediatrics, Harvard Medical School Boston Children’s Hospital, Harvard Medical School

小児 COVID-19 関連多系統炎症性症候群（MIS-C/PIMS）について改めて review をされた。川崎病と MIS-C の鑑別のポイントとしては、MIS-C の好発年齢は川崎病よりやや高めで学童期に多く（川崎病；5 歳未満で 88%、MIS-C；中央値　9 歳）、血液検査所見ではリンパ球減少、血小板減少が特徴的であり、NT-proBNP, トロポニン、フェリチン高値も鑑別に役立つ。MIS-C 罹患後の予後追跡である MUSIC study の報告では、LVEF 55%未満が 41%存在し、収縮能は全例で回復したが、拡張能低下が持続した。冠動脈瘤は稀（4.5%）であり、巨大瘤は特に稀であった。MIS-C の再発例はなく、死亡例もなかった。コロナのワクチンは、MIS-C 発症を抑制したことから、”Best protection”といえる。一方、ワクチンの副反応としての心筋炎の問題もあったが、学童や若年成人での心筋炎では死亡例はなく、回復も良好だった。

■　教育セミナー12

急性期川崎病　治療の現状と今後の展開

山口大学大学院医学系研究科医学専攻　小児科学講座　長谷川　俊史先生

座長：獨協医科大学埼玉医療センター小児科　松原知代先生

Commentator　Jane W. Newburger

山口大学小児科が川崎病の病態解析として着目してきた単球/マクロファージに関する研究史について報告があった。末梢血単核球の活性化（Matsubara, 2000）, TNF 急性期に上昇(Matsubara , 1990)、sTNFR が急性期に上昇(Matsubara , 1994), sTNFR1 が急性期に上昇 (Okada, 2014)。さらに、RAISE study（IVIG+PSL による初期治療強化）, KAICA trial（IVIG + CsA 初期治療強化）, IFX に関する研究等から、今後の治療の展望について考察がなされた。

■　特別企画２　川崎病の最前線と MIS-C ポストコロナ時代

座長：三谷義英先生　山岸敬幸先生

演者：Jane W. Newburger（Associate Chair for Academic Affairs, Department of Cardiology, Boston Children's Hospital ; Commonwealth Professor of Pediatrics, Harvard Medical School Boston Children's Hospital, Harvard Medical School）

伊藤 秀一（横浜市立大学大学院医学研究科 発生成育小児医療学）

三浦 大（東京都立小児総合医療センター 循環器科）

濱田 洋通（千葉大学 医学部附属病院小児科）

松原 大輔（自治医科大学 小児科）

■伊藤 先生

川崎病の歴史について講演いただいた。

突然出現し、増加し続ける川崎病。コロナ禍が終わって、また川崎病が増えている。病因論としては、遺伝学的背景、感染症、環境因子と様々検討されている。エコチル研究により、川崎病の発症リスクを減らす因子（葉酸）が判明した。

■三浦 先生

IVIG 不足の現況と状況について紹介された。

アンケートを関連病院にて調査を行い、90%近くが IVIG 不足を経験していた。その結果、20%前後の症例が転送されていた。小児科、血液内科、神経内科のうち、神経内科疾患の CIDP でガンマグロブリン製剤が使用されており、無ガンマグロブリン血症での需要もふえている。三浦先生が独自に草案した IVIG 不足時の対応３項目についてご紹介いただいた。①IVIG + PSL を 1 st line で使用することで、IVIG 使用量の 10%を削減できる。SAKURA study を参考に② 2 nd line の IVIG を IFX へすることによって、IVIG 使用量を 20%削減。③IVIG 1g/kg に減量して使用する場合、16～19%減少できる。

■濱田 先生

KD vs MIS-C の鑑別について講演いただいた。

①年齢が違う、②人種による頻度が逆。KD はアジアに多く、MIS-C は欧米で多い。③MIS-C では消化器症状が多い、④CAL 頻度の比較は KD 40%、MISC 10%、⑤KDSS と MISC には病態に類似性があるが、CAL の発生頻度は KDSS 73%、MIS-C 10%と解離がある、⑥血管炎の主座は、KD は中小血管、MIS-C は小血管、細動脈。などについてご説明があった。

■松原 先生

レジストリ研究から得られた内容の紹介された

① MIS-C 発症のタイミングや Covid-19 罹患後の川崎病の発症のタイミングの対比としては、「Covid-19 に罹患して４週間して MIS-C が発症。一方、Covid-19 に罹患して１週間以内で KD 発症」。
② 家族歴の頻度の対比は、KD で 2-3%、MIS-C では 2-3%程度の KD の家族歴があった。
③ MIS-C で ICU に入る症例は 12%で欧米より少なかった。1st line で IVIG + PSL 併用症例が多く、追加が必要な症例は 43%（川崎病で追加治療が必要な症例は 29%）。
④ 症状の特徴について欧米よりも、日本での MIS-C は、より KD に症状の特徴が近い。
⑤ MIS-Cの罹患率について、パンデミック開始時は高かったがその後減少している。株によって臨床症状が変わってきており、KD に似てきている。MIS-C においてショックを来す症例は 60%から 30%に減少している。

学会･研究会

■ 学会

第 44 回日本川崎病学会・学術集会

The 44th Annual meeting of the Japanese Society of Kawasaki Disease

会期：2024 年 10 月 4 日（金）・5 日（土）

会場：一橋記念講堂（東京都）

会長：深澤隆治（日本医科大学付属病院 小児科）

URL：https://procomu.jp/jskd2024/

■ 関連学会・研究会

The 14th International Kawasaki Disease Symposium

会期：2024 年 8 月 26 日～29 日

会場：カナダ ケベック州モントリオール　ホテル ボナベンチャー モントリオール

会長：AdrianaTremoulet (UC San Diego)

Nagib Dahdah (University of Montreal)

URL：https://www.ikds.org/

北海道川崎病研究会

世話人: 南雲 淳

事務局: 手稲渓仁会病院小児科

2024 年 2 月 3 日

オンライン形式

栃木県川崎病研究会

世話人: 関 満

事務局: 自治医科大学小児科

2024 年 3 月 24 日

オンライン形式

関東川崎病研究会

代表世話人: 濱田 洋通

事務局: 千葉大学大学院医学研究院小児病態学

公式サイト https://www.jskd.jp/tokyoren/index.html

2024 年 6 月 22 日（土） 15 時～17 時 30 分

ハイブリット開催（第一部：Teams、第二部：ZOOM）

一部共催: 武田薬品工業株式会社

神奈川県川崎病研究会

代表世話人: 伊藤 秀一

事務局: 横浜市立大学小児科 福田 清香

2024 年 2 月 3 日

共催: 日本血液製剤機構

新潟川崎病研究会

代表世話人: 沼野 藤人

事務局: 新潟大学小児科

共催: 武田薬品

信州川崎病フォーラム

代表世話人: 内海 雅史

事務局: 信州大学小児科

2024 年 11 月 1 日

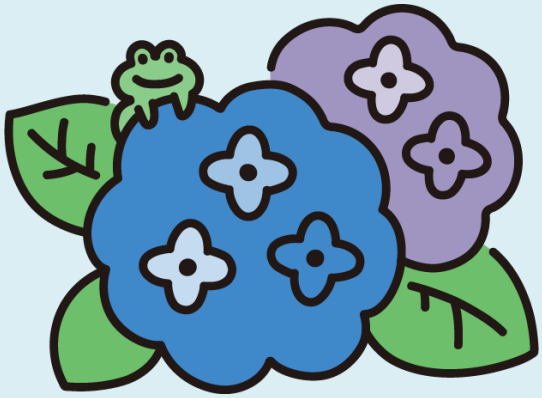
北陸川崎病研究会

代表世話人: 廣野 恵一

事務局: 富山大学小児科

2024 年 12 月頃

共催: 日本血液製剤機構



静岡川崎病研究会

代表世話人: 岩島 覚

事務局: 中東遠総合医療センター小児科

小児科研修会と合同開催

東海川崎病研究

代表世話人: 加藤 太一

事務局: 名古屋大学小児科

公式サイト : http://tokai-kawasaki.jp

2025 年 5 月 31 日

共催: 日本血液製剤機構

近畿川崎病研究会

代表世話人: 津田 悦子

事務局: 国立循環器病センター

公式サイト : http://www.kinki-kawasaki.jp

2024 年 3 月 1 日

ハイブリッド開催

共催: TEIJIN

和歌山川崎病研究会

代表世話人: 末永 智浩

事務局: 和歌山県立医科大学小児科

2024 年 12 月初旬

共催: TEIJIN

岡山川崎病・小児循環器病研究会

代表世話人: 塚原 宏一／脇 研自

事務局: 倉敷中央病院小児科

2024 年 11 月 28 日

共催: 日本血液製剤機構

広島川崎病研究会

代表世話人: 鎌田 政博

事務局: たかの橋中央病院 小児循環器内科

高知小児循環器・川崎病研究会

代表世話人: 玉城　渉

事務局: 高知大学小児科

共催: 日本血液製剤機構

九州川崎病研究会

代表世話人: 須田 憲治

事務局: 久留米大学小児科

2024 年 5 月 25 日

共催: KM バイオロジクス

鹿児島小児循環器・川崎病研究会

代表世話人: 上野 健太郎

事務局: 鹿児島大学小児科

2024 年 8 月 3 日

共催: 日本血液製剤機構

編集後記

この度、日本川崎病学会の広報活動の 1 つとして Newsletter を発刊することができ、ご協力いただいた理事の先生方に厚く御礼申し上げます。ここ 10 年で学会を取り巻く環境は大きく変わってまいりました。特に SNS をはじめとした情報発信は、その使い方に注意を払えば非常に有用なツールであり、様々な学会でも利用されはじめてきております。本学会でも遅ればせながら広報委員が立ち上がり、今後はより多くの皆様に情報発信をできればと考えております。特に、本学会の会員以外の先生方にもお届けできればと考えており、興味をもっていただけた際には、是非学会への参加や会員登録をご検討いただければと思います。今後も Newsletter 委員の先生方と協力して、より興味深い内容をお届けできればと思っております。何卒よろしくお願い致します。　（編集委員　高月　晋一）